

【概要ページ】

一般国道 24 号京奈和自動車道（京奈道路）の事業評価

事後評価

1. 主な効果

一般国道 24 号京奈和自動車道（京奈道路）の開通により

- (1) 交通事故の減少
- (2) 地域の生活への貢献
- (3) 日常活動圏の中心都市へのアクセス向上
- (4) 地元小売業への影響

などの効果が発現されました。

2. 費用と効果の確認

本事業にかかる費用と生じる便益により、算出される費用便益比は 3 . 6 となります。

費用便益比	=	3 . 6
-------	---	-------

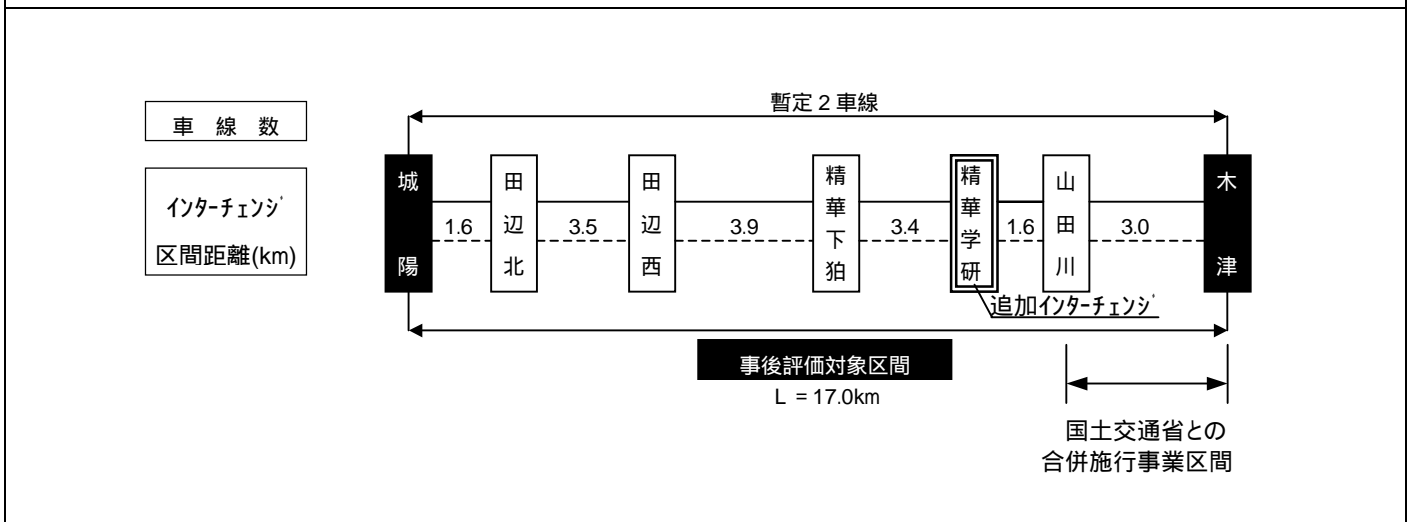
3. 地図

位置図



一般国道 24 号
京奈和自動車道
(京奈道路)

事業概要図



4. 事業概要

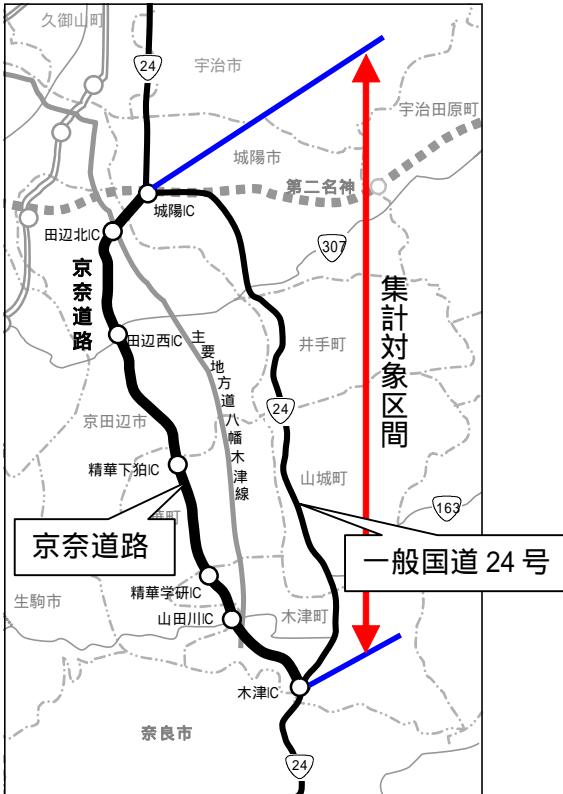
事業名	事業区分	事業主体	起終点	延長	全体事業費
一般国道24号 京奈和自動車道 (京奈道路)	一般国道	国土交通省 近畿地方整備局 西日本高速道路(株)	自：京都府城陽市寺田 至：京都府相楽郡木津町市坂	17.0 km	1,260 億円

(1) 交通事故の減少

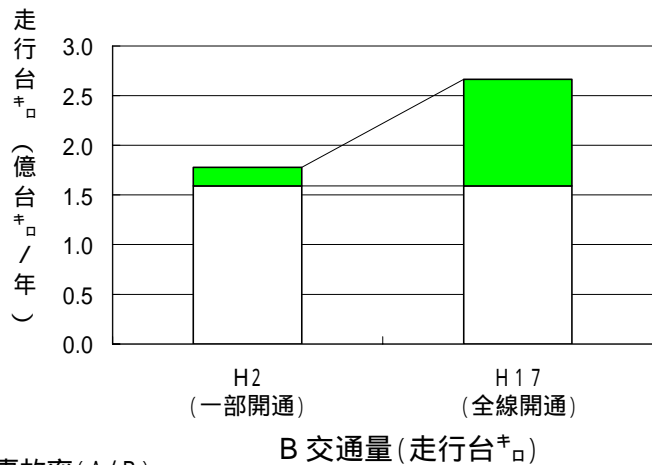
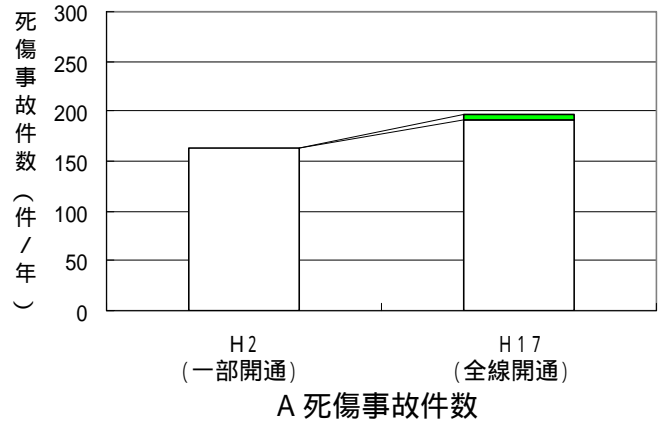
事業前後

京奈道路とこれに並行する一般国道24号を合わせた死傷事故率は、92.6件/億台キロ(H2)から73.5件/億台キロ(H17)へと約2割減少しました。

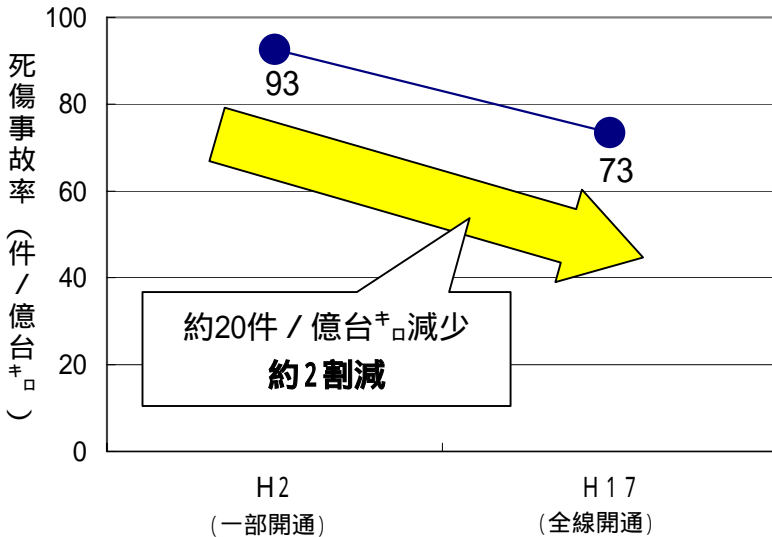
< 集計対象区間 >



□ 国道24号 ■ 京奈道路



一般国道24号と京奈道路を合わせた死傷事故率 (A/B)



参考

走行台キロとは：自動車の走行距離の総和。
(各区分延長とその区分の交通量に乗じてた各区分を足し合わせた総数)
事故件数には区分交通量だけでなく自動車の走行距離による要因も含まれるので、交通量は走行台キロによるものとしています。

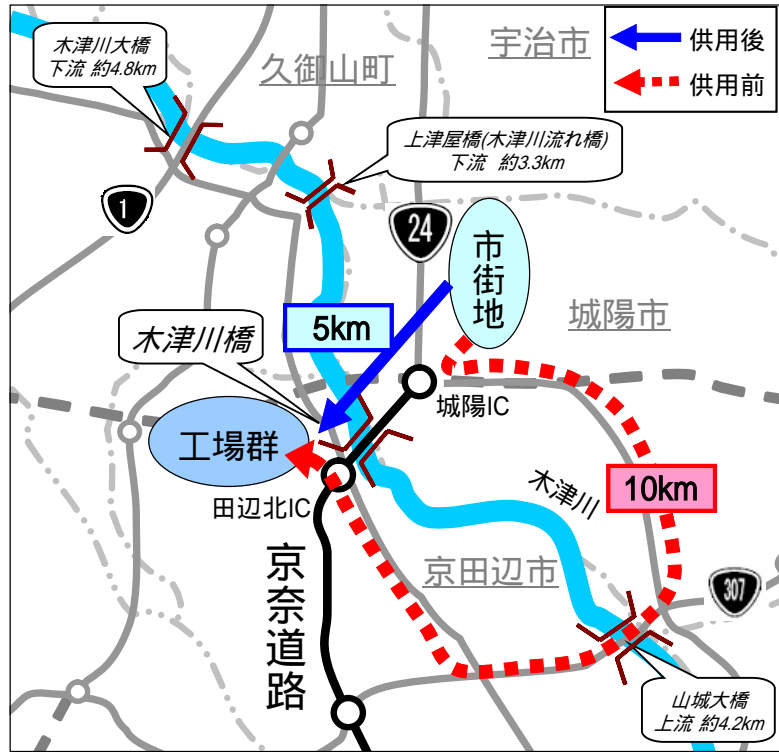
事故率 = 死傷事故件数 / 交通量

出典：道路交通センサス及び西日本高速(株)資料

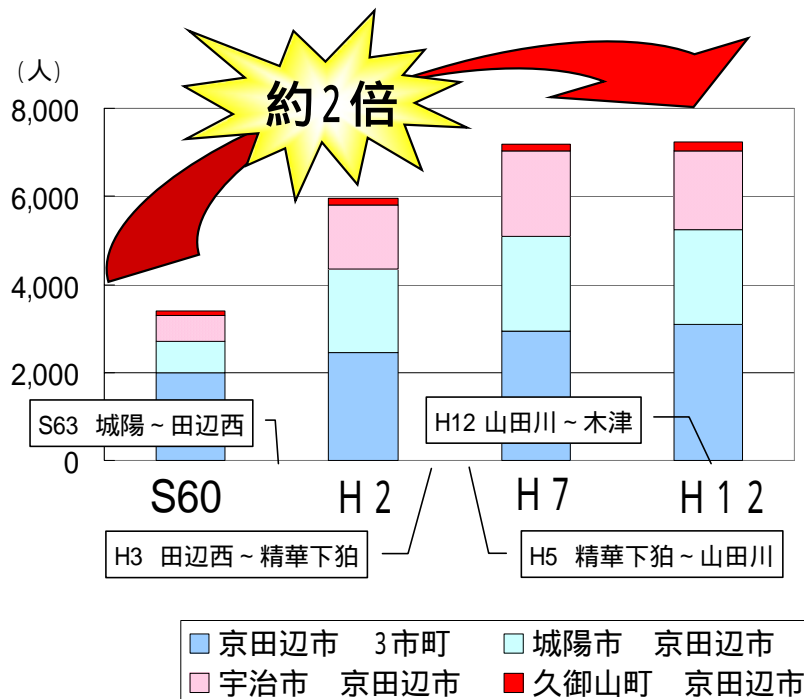
(2) 地域の生活への貢献

事業前後

木津川橋の整備に伴い、新たに木津川を渡るルートが形成され、木津川によって分断されていた地域が結ばれました。原動機付自転車、自転車も通行が可能となり、地域の生活に密着した道路として活用されています。



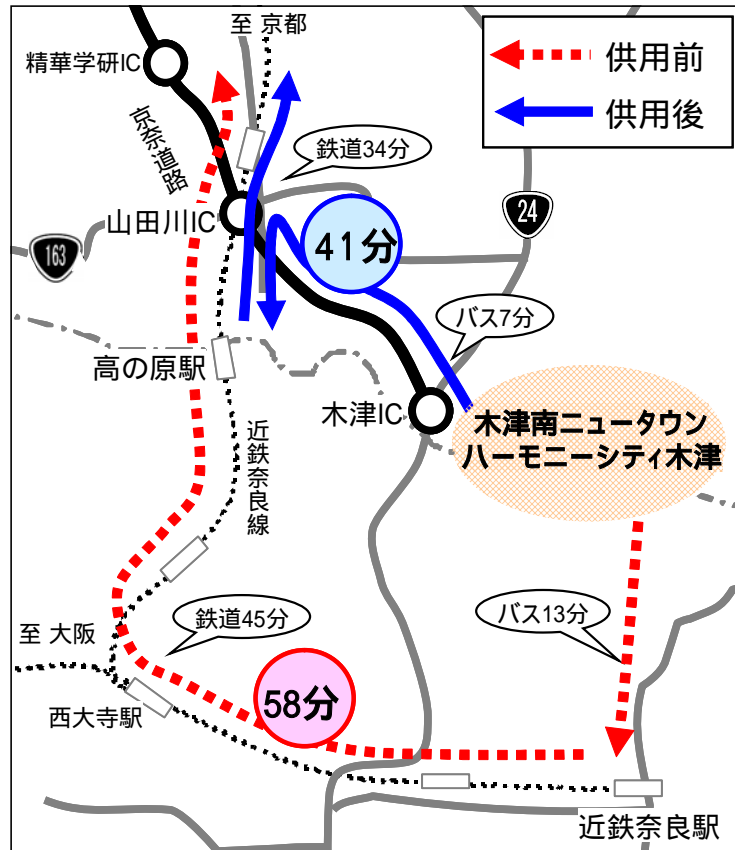
久御山町、宇治市、城陽市と対岸の京田辺市との通勤・通学者数の推移



(3) 日常活動圏の中心都市へのアクセス向上

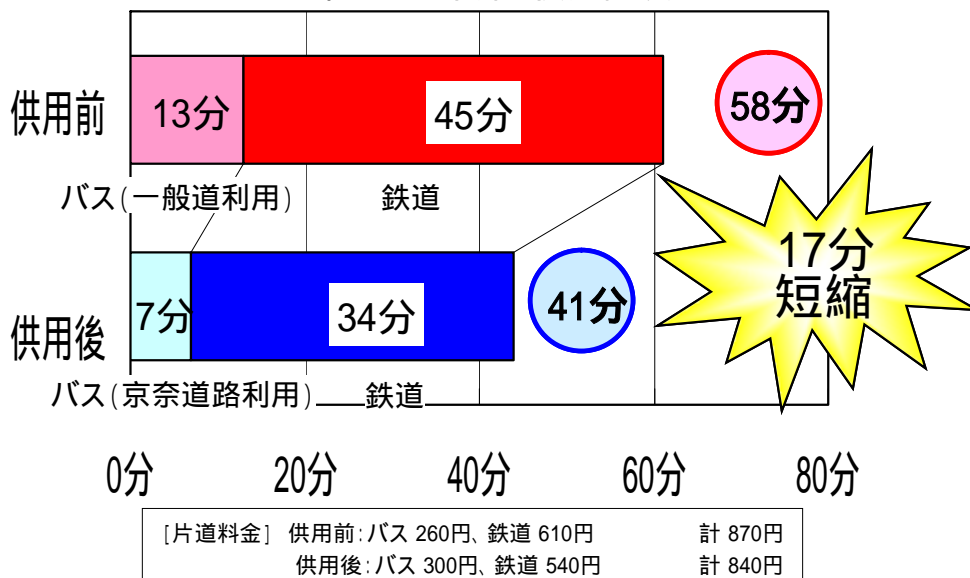
事業前後

京奈道路を利用したバス路線が新たに開設され、ニュータウンから京都方面への通勤・通学時間が17分短縮されました。



新たなバス路線の開通によって短縮された京都方面への通勤・通学時間

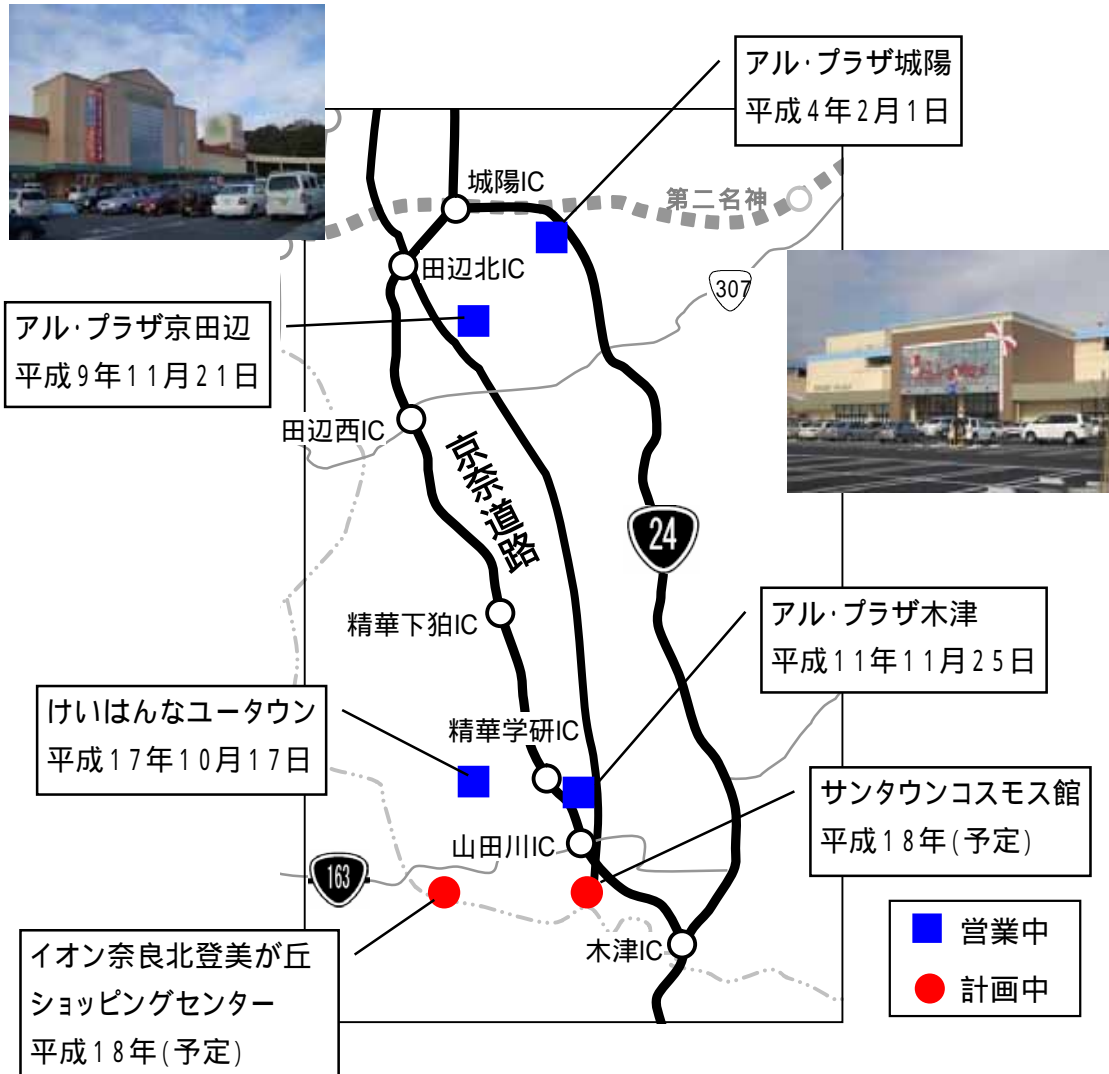
山田川～木津 供用前後



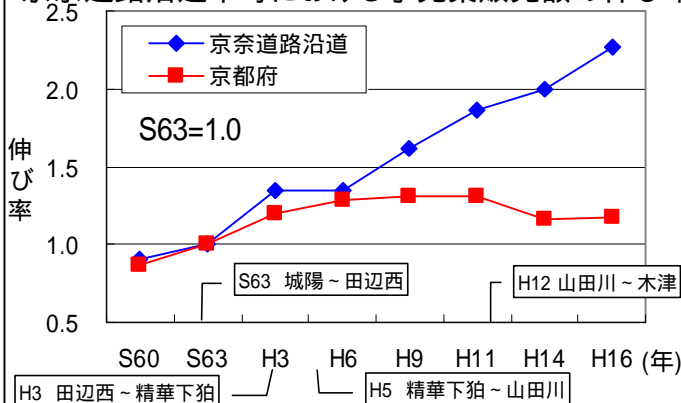
(4) 地元小売業への影響

事業前後

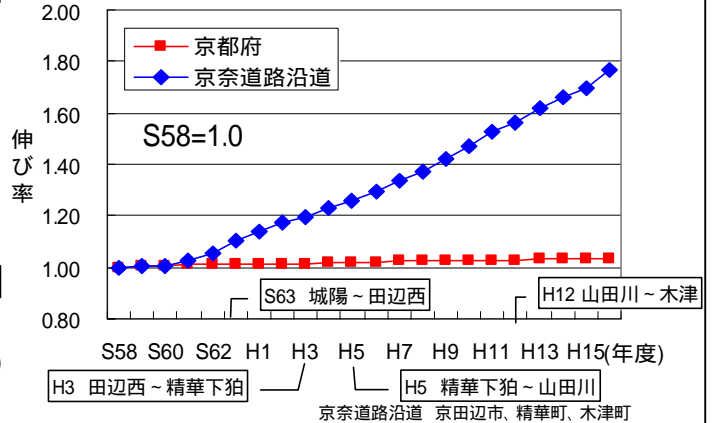
京奈道路沿道地域における小売業販売額の伸び率が、京都府全体の伸び率の約2倍となっています。



京奈道路沿道市町における小売業販売額の伸び率



京奈道路沿道地域及び京都府の人口の伸び率



(5) 周辺環境との調和

事業前後

周辺環境との調和を図るため、周辺によく見られるブナ科の「どんぐりの実」を付ける樹木を植栽しました。現在、どんぐり街道の名が定着しています。



どんぐり広場



どんぐりの植樹の風景



「どんぐり街道」の看板

(6) 費用と効果の確認

費用便益比： 3 . 6

道路整備の効果は多種多様ですが、このうち金額に換算できる効果に限定して、もたらされる便益を算出すると 9 , 4 7 8 億円となります。
これに対して、建設や維持管理にかかる費用は 2 , 6 2 4 億円です。
したがって、本事業にかかる費用と生じる便益より算出される費用便益比は 3 . 6 となります。

総費用		総便益			基準年
2 , 6 2 4 億円		9 , 4 7 8 億円			
事業費	維持管理費	走行時間短縮 便益	走行費用減少 便益	交通事故 減少便益	
2,296 億円	328 億円	9,284 億円	111 億円	84 億円	

費用、便益は、供用開始後 40 年後までに発生するものを現在の価値に換算した上で、合計して算出しています。

四捨五入の関係で、各計数の和が合計と一致しないところがあります。